



ACPF-CPPAP オンラインセミナー



(2021年9月2日開催)

ACPF (アジア刑政財団) は CPPAP (フィリピン犯罪防止実務者連盟、ACPF の海外協力団体) と共催し、2021年9月2日(木)に第2回刑事司法セミナーを開催しました。

第1 初めづくし今回のセミナーの特徴とは？

- 1 初めてのオンラインセミナー形式になったのは、もちろん、新型コロナウイルスの影響です。
- 2 また、「フィリピン国家犯罪防止週間」(例年9月1日から7日間)協力行事とすることができました。ひとえに国家警察委員会 (NAPOLCOM) のお蔭です。
- 3 参加案内を広く国内外に求めました。



具体的には、①在フィリピン日本人企業様に加え、②在日本 ACPF 会員等、③アジ研関係者 (職員、同窓生)、④ NAPOLCOM (国家警察委員会) 関係者、⑤国連 NGO 犯罪防止刑事司法連盟会員です。

その結果 147 名もの参加がありました。(第1回は日本企業様等から約 50 名の参加)。

初づくしの中で、変わらぬこともありました。つまり次の「協力と利便性」です。

- 4 セミナー案内に関し、フィリピン日本人商工会議所様からご協力を賜りました。この場をお借りして感謝申し上げます。
- 5 参加費用無料、日英同時通訳付

第2 今回セミナー日程

1 開会行事

国家演奏

歓迎挨拶：ブロサス国家警察委員会委員



2 講義

どの参加者も自分に関心のあるテーマを視聴できました。
各テーマの持ち時間は30分。どれも関心の呼びどころです。

第1講義：行政適正化法（お役所仕事弊害除去策） ベルギサ・行政適正化庁長官



平たく言えば、非効率で複雑なフィリピンのお役所仕事を抱えている課題を、今後どう解決していくか（デトルテ大統領が経済・社会対策分野で最重要第3位に掲げています）。このテーマを、セミナーテーマに掲げていること自体、その改善への意気込みが感じられます。

講師は、ベルギサ行政適正化庁長官で、庁のトップです。

30分しかない講義時間の中で、真摯でかつ積極的な発表姿勢が聴衆の胸を打ちました。発表内容は、極めて具体的でした。これまでのお役所仕事停滞の弊害を打破すべく

- ① 行政庁の業務処理期間の促進化制限を、業務の困難度に応じて3日、7日、20日と法令上で設けたこと、
- ② それができなければ自動的に申請者に承認することとしたこと。
- ③ 怠慢な行政機関には、罰則を科すこととして、実行していること

その結果、業務処理日数ばかりでなく、関係事務所間の手続プロセスも大幅に減少させており、その統計的な数字も紹介し、また世界内での行政効率順位が短期間に上昇したことも紹介されました。

また、被害相談の照会先（行政適正化庁：Anti-Red Tape Agency: ARTA）の案内もパワーポイントでしっかりと紹介され、受講者には参考になったと思われます。

第2講義：ビジネスにおけるサイバー犯罪防止策

アブラザード・フィリピン国家警察サイバー犯罪対策隊長（警視長）

講師は、アブラザード・フィリピン国家警察サイバー犯罪対策隊長（警視長）です。パワーポイントでフィリピン全国のサイバー犯罪被害者の状況や、その内容を分かりやすく紹介いただきました。

氏が特に警告されたのは、サイバー犯罪被害に知識のない全国の方々がその被害に巻き込まれやすい現状です。



これは、スマートフォンやパソコンをフィリピンでも多用される現状を背景に、年ごとに増加しています。被害状況としては、詐欺が主要ですが、名誉棄損、いじめなどの被害など多様な分野に及んでいるとのこと。この被害相談先もサイバー犯罪対

策室から知らされております。

なお、被害者のいじめの定義につき、参加者から質義応答があり、このテーマに関する関心の高さがうかがわれました。

第3講義： 犯罪防止犯罪者処遇における実業界のかかわり ドナ・キャパラス国家警察委員会犯罪防止局長

講師は、キャパラス国家警察委員会 (NAPOLCOM) 犯罪防止局長です。

氏は、CPPAP の財務部長でもあり、またアジ研同窓生でもあります。フィリピン国家犯罪防止週間（毎年9月1日から7日間）の行事の中で、初めて ACPF-CPPAP セミナーを開催できたことにもふれながら、フィリピンの犯罪防止犯罪者処遇における、NAPOLCOM の取組、ACPF と CPPAP の協働態勢（特に、モンテルパの法務省矯正局地所在のフィリピン・日本更生保護会活動（ACPF 名古屋西ライオンズクラブ、ACPF 名古屋支部等の本年のご協力）にも触れ、フィリピンでのバラングイ（地域自治体）の協力も踏まえた犯罪防止犯罪者処遇への協力体制と運用を説明していただきました。



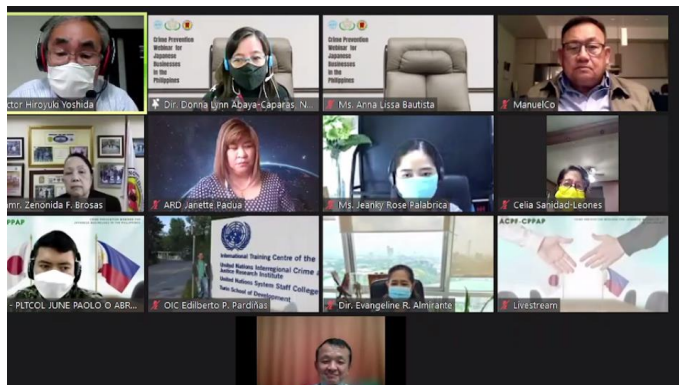
3 総括質疑

4 謝辞：コーCPPAP 会長

5 謝辞：山下輝年 ACPF 副理事長
兼事務局長

[挨拶文はこちら](#)

6 閉会の辞：アグイレ国家警察委員会副委員長



今回は、以上3つの講義を連続で行ったため（各30分）、お疲れになった方もいらっしゃるかと存じますが、おかげさまで大変有益だったとの声もいただきありがとうございます。

聴講者の感想や、実施に至るまでの苦労話は、また、順次、披露していきたいと考えています。

（ACPF 事業部長：吉田弘之記 2021年9月5日）